

復興の白い花 ～村産カスミソウ 初出荷～



▲かすみ草生産者組合の皆さん(左から、高橋日出夫さん、菅野徳子さん、佐藤和生さん、菅野益夫さん)



「清らかな心」「無邪気」など。初夏の村に白く優しい花が、咲き誇りました。

7月20日、村内で栽培されたカスミソウが、震災後初めて出荷されました。出荷された150本のかすみ草は、翌日に大田花卉市場(東京都)で競りにかかり、生産者の念願だった村産の花弁の販売がスタートしました。

この日に出荷されたカスミソウは、平成28年度福島再生加速化交付金で、村が整備したパイプハウス17棟を活用し、村の新たな振興作物としてかすみ草生産組合が栽培したものです。「いたての花」と大きく書かれた輸送用段ボールを荷台につけたトラックが発売するのを見届けると、生産者の皆さんから「ホッとした」という声と優しい笑みがこぼれました。



初出荷されたカスミソウを栽培した
高橋 日出夫さん (関根・松塚)

「避難先で初出荷できた時と同じように嬉しい。村に戻ってきて、農業する覚悟でこれまでやってきた。自分の好きな村で、自分の好きなことをして生きていけることに喜びを感じている」

畜産の村復活へ 全国で腕試し



▲6月28日、最終選抜会で優等賞1席に選ばれた佐藤さんと「しんたく63」

6月28日、全国から選抜された和牛の優秀性を競う第11回和牛能力共進会に出品する福島県代表を選ぶ最終選抜会が行われ、第2区(若雌の1)で佐藤一郎さん(大倉・JAふくしま未来)が避難先の相馬市で飼養し、出品した雌牛が優等賞1席に選ばれました。このことにより、佐藤さんは、9月に開催される本大会への県代表牛出品者として決定しました。

佐藤さんが出品した第2区分での入賞は、村としても、相馬地区としても初めてのことで、避難先での畜産でも、優れた技術を発揮した快挙です。

結果報告に村役場を訪れた佐藤さんは「たくさんの方の皆さんの応援や先輩方からのアドバイスがあったからこそ。村民へ元氣と勇気を与え、村の勢いにつなげていきたい。本大会では、畜産の村復興のために上位を目指していきたい」と大会にかけると意気込みを話しました。

また、和牛審査協議会県・女性部の代表として原田公子さん(飯樋町・JA夢みなみ)が出場します。

5年に1度、和牛のオリンピック 第11回 全国和牛能力共進会 宮城大会

- 開催期間 平成29年9月7日(木)～11日(月) **入場無料**
- 開催場所 【種牛の部】 夢メッセみやぎ (仙台市)
イベントエリア営業時間
午前8時30分～午後6時
※最終日は、午後1時30分まで。
※肉牛の部は、一般の方は入場できません。

全国和牛能力共進会とは

5年に1度、全国から選抜された和牛が一堂に会し、その優秀性を競い日本一を決定する全国大会です。

第11回大会となる宮城大会は、全国から39万人の来場が予想されるビッグイベントとなります。

メイン会場の夢メッセみやぎでは、全国銘柄牛の大試食会や宮城県の食・観光・物産・文化の発信、豪華ゲストのステージなども開催されます。

